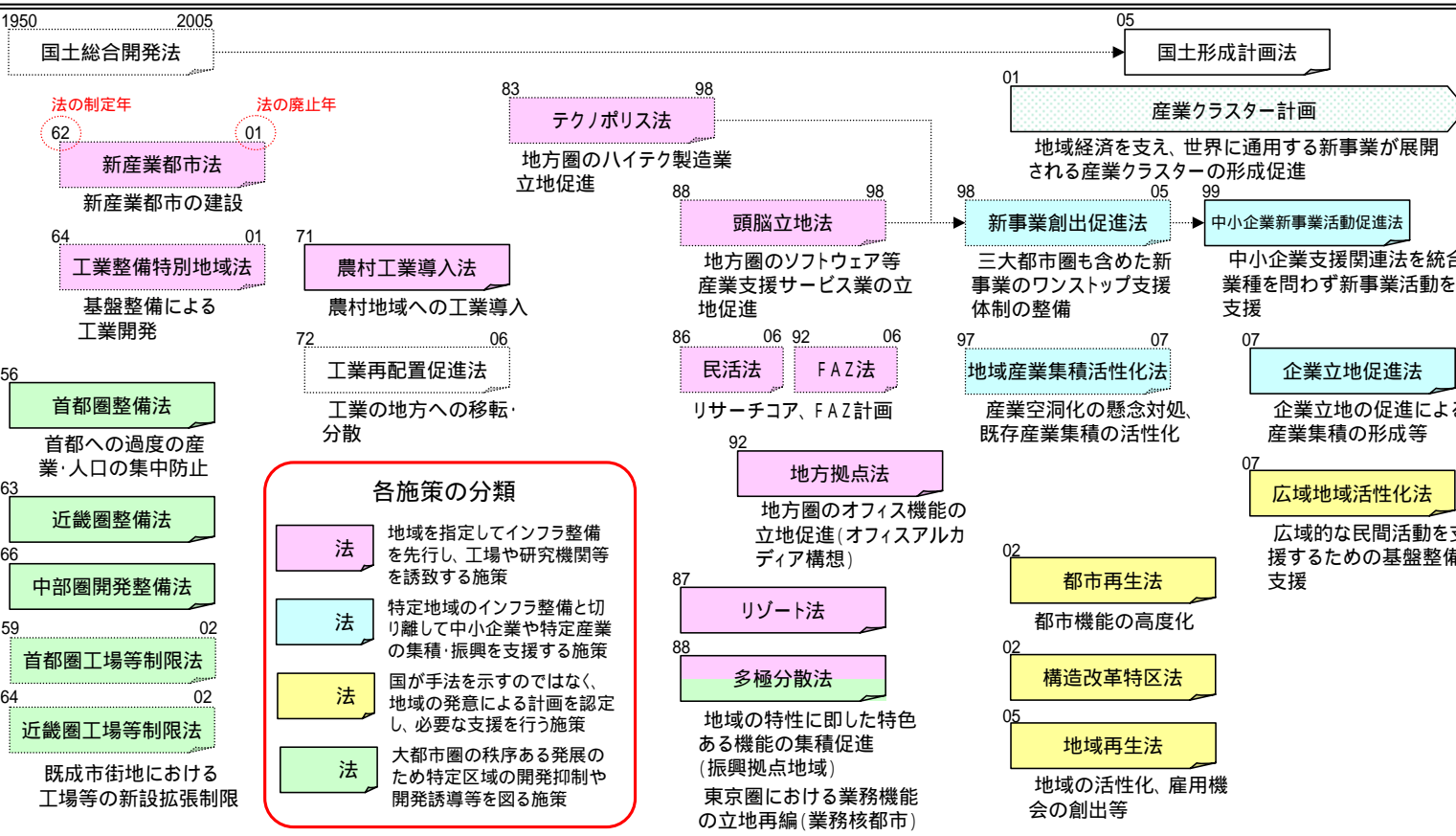
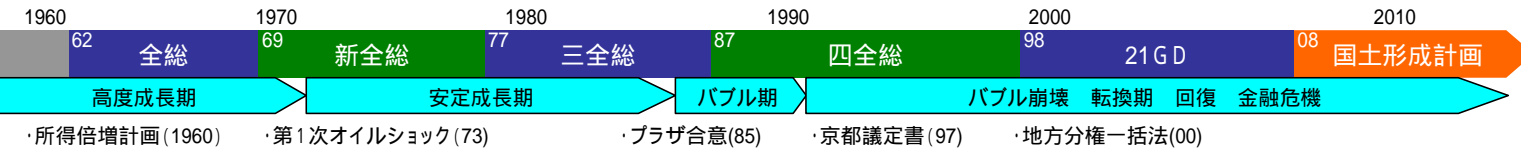


# 3 - 1 国土・地域政策の変遷



最近の政府報告書等

科学技術による地域活性化戦略 (総合科学技術会議、2008)

多様性強化戦略  
グローバル拠点強化戦略

知識組織替えの衝撃 - 現代産業構造の変化と本質 - (産業構造審議会新成長政策部会基本問題検討小委員会、2008)

中小企業も「グローバル企業」としての「第二の創業」が必要な時代  
地域クラスターのオープン化  
コーディネータ人材の育成

地域イノベーション研究会報告書 (地域イノベーション研究会、2008)

地域クラスター施策の更なる推進と成長  
大学を中核とした地域イノベーション拠点の形成  
地域の研究開発資源のオープン化  
地域イノベーションを担う産業支援人材の発掘・育成・交流  
研究会発の成果が実証されるような取り組みのための新たな対応 (「スーパー・テクノイノベーション特区 (仮称)」など)

地域活性化のための企業立地促進に関するワーキンググループ報告 (2009)

広域連携による企業誘致と産業集積の活性化  
集積企業の活性化  
外資系企業の誘致  
研究開発拠点の機能強化

規制改革の推進について (経済財政諮問会議、甘利臨時議員提出資料、2009)

ライフサイエンスなど先端産業分野での規制・制度改革 (スーパー-特区的手法など)  
実証実験を通じた規制・制度改革  
人材育成分野での規制・制度改革

(新産都市というのは) 市場に任せただまてで経済が動けば、地域格差が拡大するということを経済問題にしたということが出発点です。...一言でいうと、日本の高度成長期くらい地域格差が縮小したことは世界に類例がないです。... (地方の) 過剰人口が全部都会へ流出したわけですから。...人口の流出値を高めたことが格差は正の要因のかなり大きな部分だと思っております。 [下河辺 (1994)]

テクノポリスは一時代を築いた法律であると思うが... その構造は工場立地を促進することにある。そして、工場立地で成長してきた時代の有終の美を飾るようにテクノポリスはそれなりの成果と限界を見せた。 [井熊 (2001)]

(九州では) すべての県でテクノポリスが指定された結果... 各県の競争的誘致活動によって、半導体工場は... (分散) 立地していった。... 産業集積というにはあまりにも貧弱すぎるのである [山崎 (2003)]

頭脳立地法やオフィスアルカディアがうまくいかなかったことは共通した理由がある。地域間の格差をなくせる、という幻想から脱し切れなかったことだ。 [井熊 (2001)]

地域をミクロ的にみれば、特定業種の量産工場の本格稼働によって急速に発展する地域が各地に移動しながら点在している。しかし地域をマクロ的に見れば、人口、とくに知識労働者階層ほど首都圏へ流出し、地方の研究開発能力や地場企業の国際競争力の欠如という現実から脱却することはできなかった [山崎 (2003)]

地域産業政策の目的は、その場 (空間) をより効率的な企業の生産活動の場... へ転換していくことである。... グローバル立地展開が進んでいる現代においては、条件不利地域に企業を強制的に立地させるという施策は有効に機能しない。 [山崎 (2003)]

(知的ビジネスが成功するには) ハード面での整備を支援する従来型の政策はあまり役に立たない。... 今ある資源をいかに活かすか、という方向にしか成功の見込みはない。 [井熊 (2001)]

下河辺 (1994): 下河辺淳「戦後国土計画への証言」、日本経済評論社、1994

井熊 (2001): 井熊均「都市再生プロジェクトを読む!」、オーエス出版社、2001

山崎 (2003): 山崎明「地域産業政策としてのクラスター計画」『日本の産業クラスター戦略』石倉洋子他、有斐閣、2003